

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***世界天文年2009に貸し出してあった透過対物グレーティングの返却と展示**

ガリレオ・ガリレイが4cmの屈折望遠鏡で初めて天体を見たのが1609年と云われている。2009年はそれからちょうど400年。これを記念して世界天文年2009というイベントで日本国内のあちこちで天文の関連展示を巡回するという催し物があり、天文機器資料館では展示してあった透過対物グレーティングを世界天文年2009の巡回展示に貸し出してあった。その透過対物グレーティングが5月11日に返却された。アーカイブ室からは90mmバンベルヒ子午儀も貸し出してあったが、輸送費がかさむこの子午儀は最初の展示が終わったところで早々に帰って来ていた。今年は早2011年である。2年間かけて国内のあちこちで巡回展示が行われたようだ。5月11日はあいにくの雨模様の天気であった。写真1が返却された透過対物グレーティングである。



写真1

ハ
ー
者
兼
子
イ
ン
見
る
て
い
で
お
っ
機
て
展
作
示
台
す
る
そ
ひ
る
グ
レ
カ
ル
が
っ
た
る
こ

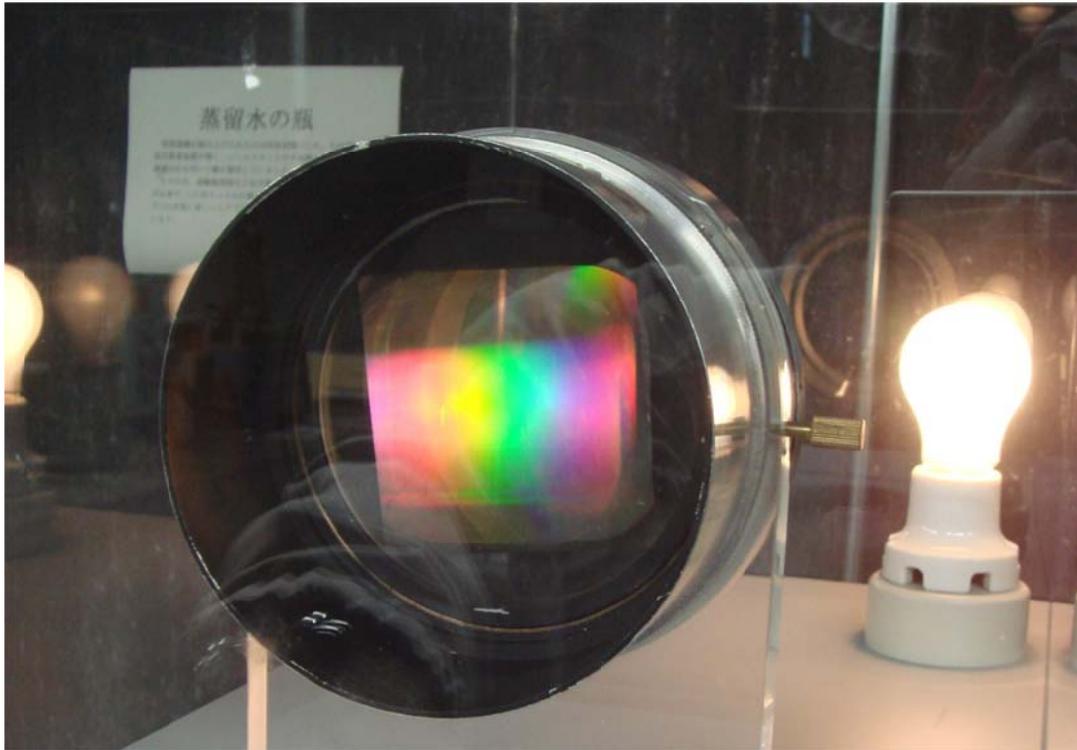


写真2 スペクトルの見える様子

この展示の説明パネル（写真3）も一緒に譲っていただいたので、そのまま国立天文台でも展示することが出来る。

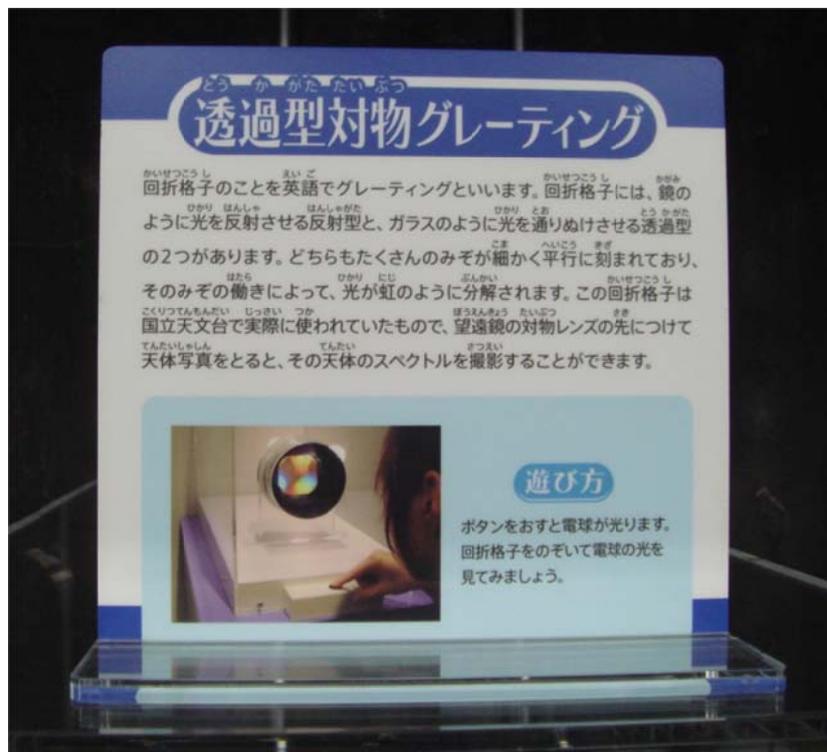


写真3

貸し出す時は天文機器資料館に展示していたものだが、2年を経ると国立天文台も進化しており、天文機器資料館の整備も進み、また太陽塔望遠鏡の整備も進めており、太陽塔望遠鏡の半地下の分光室もかなり広い面積を持っているので、この分光室に国立天文台に残っている分光器の類を集め、分光器資料館を目指しているのです。この透過型対物グレーティングは、太陽塔望遠鏡の分光室に展示した。

国立天文情報センターでは6月から、今まで中に入れなかった太陽塔望遠鏡棟、天文機器資料館にも入って見学していただくガイドツアーを始める。その展示の一つとして見てもらえる。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp